

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校 学校だより NO3

令和 7年 6月27日(金)
7月 校長 玉置和也

「ありがとうを伝えよう」

6月は、5年生の土岐川でのカワゲラウォッチングに始まり、自然ふれあい館の方と1、2年生が木のおもちゃづくり、4年生の高齢者疑似体験、5、6年生の救急救命講習会、化石博物館学芸員さんによる6年生パレオパラドキシアの話など、多くの活動を行いました。

6月16日、4年生は東部広域水道事務所・中津川浄水場に出かけました。木曽川より水を汲み上げ、東濃地区に水を供給している施設です。広い浄水場でしたが、水の汲み上げが止まってしまうと、4時間で浄水場の水は無くなってしまいます。それと24時間365日ずっと浄水場は動いていて、働いている人もいることを知り、水の大切さを改めて知りました。見学の最後には、子どもたちは手を挙げて質問をしました。質問に答えてくださった浄水場の方が質問に答え終わると「ありがとうございます」とそのたびにお礼を返しました。どの子もです。中津川まで行ったのでバスから降りる時も「ありがとうございました」と運転手さんに自然に言っていました。お礼の手紙を書きましたが、そこには「ありがとうございました」の言葉があります。浄水場を案内してくださった方は、偶然にも瑞浪出身の方でした。お礼の手紙が届く頃には、「ありがとう」がまた人と人をつなげるのではないかと思います。

6月14日からは、竜吟の滝でホタル祭りが行われていました。4月末に自然ふれあい館からの依頼で、5、6年生はホタル祭りで使用するランプシェードのデザインをしました。ホタルの絵だったり、恐竜の絵だったりを散りばめたシェードが竜吟の滝までの道を照らしました。先日、ホタルとランプシェードを見ようとホタル祭り会場へ出かけました。そこでホタルを見に来ていたご夫婦から「ここからホタルがよく見えますよ」と声をかけられたので、つい「どちらからおみえですか」と声をかけてしまいました。すると「瑞浪市内から」とおっしゃられ、私にも「どちらから」と聞かれたので「釜戸小のものです」と答えました。するとチラシを見てくださっていたのか「ランプシェード、小学生が作ったそうで、助かります。子どもに『ありがとう』と伝えてくださいね。」と言われました。大変うれしくなると共に、「ありがとう」は本当に人をつなぐと思いました。そんな話を自然ふれあい館の人に伝えると、「うれしいです」と返ってきました。温かな気持ちが膨らみ、広がります。



先日、行った和太鼓教室も、志多らの皆さん、釜戸の青龍の皆さん、釜戸町まちづくり推進協議会や参観してくださった皆さん。「ありがとうございました」。今年度の釜戸小コミュニティスクールの合い言葉の一つに「ありがとうを伝えよう」を掲げました。これからも地域と関わる学習活動が続きます。感謝する心を伝え、「ありがとう」が今年もいっぱいになることを願っています。最後に、子どもたちが書いたお礼の中から、和太鼓教室の3人の若い講師の方に親しみを込めたお礼の手紙の一部を紹介します。

おずかしい「楽」をえんそうするとなったとき、自信がなかったけど、〇〇くん、〇〇ちゃんと〇〇くんがわかりやすく笑顔で教えてくれたから、楽しく笑顔でできました。ありがとうございました。